	質問（質問者氏名は個人情報保護の観点から掲載を控えております）	回答（敬称略）
1	【誰に対する質問か】立命館大学　木原先生 【質問内容】立命館大学へのお尋ねです． SSPのStudentSkills/AcademicSkillsの評価ですが．例えば全米大学協会のValueルーブリックの活用（探求と分析・批判的思考・創造的思考他）などされていますでしょうか．また，それらを蓄積したe－ポートフォリオで，個別の学生の4年間のプロファイルを作成し，就活に結びつけることはされていますでしょか．以上2点について，もしされていなければ，その有効性についてお聞かせ下さい．	【木原】 ご質問ありがとうございます。 SSPにおけるStudent SkillsやAcademic Skillsの評価に関して、Valueルーブリックは使用していません。 また、現状e-ポートフォリオを活用して個別支援学生のプロファイル作成や就活に結びつけるなどのことも行っておりません。 SSPでは初回や支援中のアセスメント・効果測定に関して独自の尺度を開発しています。また、どちらかといえばその尺度についても絶対的な指標というよりは可視化を進めるためのツールとして使用する側面が強く、コーディネーター一人一人の対話によるアセスメントを重視しています。
2	【誰に対する質問か】東北福祉大学　松本先生 【質問内容】初年次教育に職員さんが関わるというのはとても素晴らしいと思いました、全職員さんのうち、どれくらいの職員さんがリエゾンゼミを担当されていますか。また1人の職員さんが担当するコマ数はどれくらいでしょうか。また担当の職員さんは、授業運営や学生支援にどのような役割を担当or分担をされていますか？ポートフォリオの記入なども行ったりしますか。聞き逃していたらすみません。	【松本】 Q1.全職員のうち、どれくらいの職員がリエゾンゼミを担当しているのか？ 　東北福祉大学は4学部9学科からなっており、2021（令和3）年度の初年次教育のためのリエゾンゼミⅠのクラス数は全部で66です。そのうち、教員が主担当で職員が副担当の組み合わせのクラスは8クラスで、全体の1割強にすぎないのが実状です。 　2021年度、リエゾンゼミⅠの副担当候補となりうる職員は総数にして110名ほどですから、この年度に実際に副担当となった8名という数字は、全体の1割以下で、少ないです。それでも、できるだけ多くの職員がリエゾンゼミⅠ副担当を経験できるようにと、事務組織各部署の責任者は毎年工夫しています。というのも、職員が副担任としてリエゾンゼミⅠに参加することは、授業の教育効果をあげるだけでなく、そのときどき学生の現実の姿を肌で知ることができるという大学職員の業務遂行にとってもきわめて貴重な機会になっているからです。じっさい上記110名ほどの職員の半数近くが、過去にリエゾンゼミⅠの副担当を経験しています。 Q2.一人の職員が担当するコマ数はどれくらいか？ 　週に1コマのみとなります。 Q3.担当職員は、授業運営や学生支援にどのような役割を担当または分担をしているのか？ 　リエゾンゼミⅠは、全学共通テキストの使用、大まかな授業内容の標準化など、授業それ自体の大きな枠組みは共通化しています。この共通枠組みを前提として、具体的な授業運営の細部については各クラスの主担当と副担当で相談し、クラスの状況に応じて創意工夫を重ねています。職員が関わる場面でいえば、たとえば、職員が所属する部署（キャリア支援課、地域創生推進室（ボランティア関係）、入学センターなど）の業務内容を授業に取り入れたり、大学の先輩ないし社会人の先輩として職員が語ったり、ときに職員が学生の相談にのることもあります。こうしたリエゾンゼミⅠへの職員の関与により、学生は大学内において話しかけやすい、もしくは相談しやすい人を得ることにつながっています。 　しかし職員が関わるのはここまでです。リエゾンゼミⅠの成績など評価に関しては、教員の専管事項であり、職員が関与することはありません。ポートフォリオについても同様です。リエゾンゼミⅠを通しての学生の成長や学生の長所について教員が職員と意見交換をおこなうことはありますが、ポートフォリオの記載は教員が責任をもって行っております。

3	【誰に対する質問か】関西大学の学生 【質問内容】対面と非対面の混在での困りごと 学生の皆さんに質問です。対面とオンラインの混在で困ったという声は多くありませんでしたか？ （大学に行くか行かないか、行ったとしてオンライン環境が確保できなくて困った・顔出ししにくかったとか。大学側がどこまで教員と調整しているか等の情報が無くて不満があったとか。）	【関西大学３年次生】 ご質問ありがとうございます。長くはなりますが、ご参考までに、発表者それぞれ答えさせていただきます。 （姫野）私は、講義型授業をオンラインで行うこと自体はとても感染対策にも時間の使い方にも効率が良く学びの可能性も広がっているように感じるため賛成です。ですが、混在すると困ることがあります。1限がオンライン授業で続いて2限があるとなると結局１限から行かなければならず、朝のラッシュに巻き込まれます。また、対面授業があるために学校でオンライン授業を受けていると、授業が終わる時間は変わらないので帰りは関大前駅での人ごみに入らなければならなくなります。感染対策にはなっていないのではないかと思ってしまいます。学部ごとに授業の時間をずらすなどができれば帰宅ラッシュは軽減できそうに思います。ですが、これをすると共通教養科目などの学部を超えて受講できる授業に支障をきたしてしまうかもしれないです。 （尾関）ご質問ありがとうございます。対面とオンラインの併用での難しさは、私自身も感じるところであり、また授業支援に関わっていても散見される意見だと思われます。ご指摘にもあるように、同じ日に対面もオンラインもあったとき、たとえば1限がオンラインで2限が対面となると、結局1限に間に合うよう家を出る必要があるだけでなく、場所の確保まで考える必要があるという点でコロナ以前より考えて行動する必要は増しているかもしれません。また、大学側からもパソコンやWi-Fiルーターの貸し出しもあって対策がされている部分ではありますが、大学内でのコンセントの確保や、そもそも充電コードを忘れたら使えないなど、当然ではありますが自己責任の面、どうしようもないことで学修が妨げられるということも生じているように思われます。インターネット環境の整備が新しいインフラとして、その必要性が急速に増した中で、大学がどこまでそれに対応すべきか、どこまで整備できるかというのは課題だと感じています。 【関西大学１年次生】 確かに、対面とオンラインとの混在で悩みを抱えている学生は多いと思います。大規模な調査はできていませんが、私たちの中でもたくさんの声が集まりました。 具体的には、 ・時間割の組み合わせによって、対面とオンライン授業が混在し、受講場所を確保するのに苦労している（解放されている自習室でzoom開催の授業に参加した場合、発言を求められても声が出せない→屋外やその他の受講場所を探す必要があり、短い休み時間の中で移動することや場所の確保が難しい） ・学内Wi-Fiが繋がりにくい（特に利用の集中するお昼休み前後） ・（※恐らく関西大学に限る話です）シラバスにはzoom授業も動画配信授業も一律に「オンデマンド配信型」とくくられるため、思っていた授業形態と異なっており、すぐに対応できなかった ・zoomの授業で、ブレイクアウトルームに振り分けられた際に誰も話し始めず、せっかくのグループワークができなかった ただしこの一方で、履修登録の際に対面とオンラインを上手く組み合わせている学生も多くいるようです。この状況を上手く活用できている学生とそうではない学生との差があるように思います。

4	【誰に対する質問か】関西大学の学生 【質問内容】３年生のお二人のご報告について、大変興味深い内容でした。ご質問ですが、授業概要でご説明されていた到達目標で、「自らの問いを発見・発掘する」、「情報の信ぴょう性を判断できる」とあり、授業を受けてそれが出来た経験について具体的にもしあればお教えください。授業や学生生活、また就活など日常に活かすことができた事例をご経験のなかでありましたらお教え頂けますでしょうか。 ⊠ 最後の1年生の皆さまのご発表に関して、学生の皆さんの視点からの提案が、分かりやすく簡潔にまとめて頂いていて大変参考になりました。一つご質問ですが、学生の皆さんの声は様々あると思います。同じ内容についても意見が分かれることがあると思います。例えば、オンライン授業と対面授業のそれぞれにメリットがあり、どちらをより進めてほしいという声は学生一人一人によって状況や考え方、そして要望は異なり、ときには反対の意見もあると思います。それは、多様性があるということでもあるようにも思います。学生それぞれの意見を尊重するということと、一つの方向を決めて教育や改善を進めていくことについて、どのように考えていけば良いと思いますでしょうか。学生の皆さんの率直なご意見を教えて頂ければと思います。宜しくお願いいたします。	【関西大学３年次生】 ご質問ありがとうございます。長くはなりますが、ご参考までに、発表者それぞれ答えさせていただきます。 （姫野）「自ら問いを発見・発掘する」 私の履修科目の関係もあると思いますが、このような授業は大学では受けていないと思います。ですが、問いを発掘するのではなく、あるテーマが与えられてそれについて考えを広げるという授業は受けたことがあります。このタイプの授業は「問いを発見・発掘」という点が欠けていますが、講義を受けその時間にそのテーマに沿った課題について考えることができ知識を受け取るだけでなく、すぐにそれを活用して自分の考えを広げ深めることができました。そのため、講義型よりも記憶に残っていると思います。ですが、やはり自らの問いを発掘することになれていないので、就活で自分の特性は何か、それは何に求められているのか、なぜその職につきたいのかなどの大きな問い、そこから派生するものまで自分に襲ってきてどうするべきかに困ってしまいました。 「情報の信憑性」 これも受けたことがないと思います。私が受けた大学の情報の授業は、Excel、Wordなどのソフトの使い方がメインでした。信憑性を扱った授業は、中学・高校での情報の授業が最後だったように思います。大学生になってからは、レポートを書く際に、各サイトで述べられていることが異なるなどのことを自分で実際に体験して感じたことがあります。このように、大学生なってからは自分にゆだねられているような感じがします。 （尾関）ご質問ありがとうございます。まず今回の提案は、「この到達目標は重要だと考えるが、それを達成できる授業を自分たちが受けたことがない」という率直な感覚から考えました。したがって、大学で開講された全ての授業を受けたわけではありませんが、自分たちがこの到達目標を達成できたという経験はございません。ですので2点目のご質問に対しては、日常生活にこう活かせるといいな、という想定でお答えします。 「自ら問いを発見する」では、たとえば就活において、目標を立て（どこに就職する、どのような企業に就いてどのように自己を体現、実現するか、など）、その目標には何が必要なのかを分析する力を身に着けられたら良いのではないか。あるいは大学で学修、研究を進める上で、教えられたこと見聞きしたことを単純に鵜呑みにせず常に疑問を持つことでより良く理解したり、身近な現象の中に疑問を見つけ研究の種を探せると良いのではないかと考えます。 次に「情報の信憑性の判断」についてです。これまであった「情報」と名のつく授業は、表計算ソフトやプレゼンテーションの授業ばかりであったように思われます。しかし、実際に対峙すべきは日々のニュースではないかと考えます。たとえば毎秒のように更新されるニュースに対して、疑問を持ち続け調べること、ファクトチェックを行うことは、流れの速い現代社会の中で自身が地に足をつける感覚を持てるのではないか。そのために信憑性の判断の授業は必要であると考えています。 【関西大学１年次生】 学生に多様性があるというのは、まさにおっしゃる通りだと思います。この話に関しては、私たちのグループでも異なった意見が出ました。 ・「大学はそもそも学ぶ場所であるから、学びにきている人を最優先に教育やシステムを考えてはどうか。できるレベルの一番高いものを行っていれば、他に要望があったとしても対応できるのではないか。」 ・「大学として一つの方向を定め、改革を行う際には複数のアプローチがあっても良いのではないか。また、現実的に導入可能なものから取り入れる姿勢を大切にし、大学で学ぶということにも多様性があることを念頭に置いて考えるべきなのではないか。」 ・「あらゆる場合において、対面とオンライン（オンデマンドも含む）の両方で行うことができれば、大方解決できるのではないか。」 ・「学生一人一人の意見を聞くことには限界がある。大学側で一つの方向を定め、改革を行ってほしい。また、その方向を定める際には学生アンケートを実施する等して、学生の意見も参考にするのはどうか。」 グループとしての意見が統一できていない点は大変申し訳ないのですが、これらが私たち学生の率直な意見です。参考にして頂ければ幸いです。

5	【誰に対する質問か】関西大学の学生 【質問内容】コロナに限らず，主体的に学ぶ方法として，課題解決型学習(project-based learning)が有効と考えます．その際反転授業で、教員が授業前にLMSにアップした教材（ビデオなど）について学生が自習を行い，実際の授業で学生は，予習で得た知識を応用して問題解決を行う．その際教員は、ファシリテータとして学生同士の議論を活発化させることに専念します．	【関西大学３年次生】 コメントありがとうございます。 （姫野）私もそのような流れを活用した授業を受講したことがあります。先に授業で扱うテーマの映像教材を視聴し、授業までにいくつかの質問に答え授業では意見を共有するというものでした。始めは自分一人で考えるので難しく感じましたが、すぐにLMSでほかの受講生の考えを見ることができるので自分とは違った見方・考え方を知ることができとても効率よく学ぶことができたと思います。授業では先生がファシリテーターとして考えを引き出してくださりました。 （尾関） コメントありがとうございます。大学の授業で反転学習を用いたものは何度か経験がありますが、たしかに授業前課題への姿勢や授業中の姿勢を振り返るに効果的だったと感じています。オンラインでもそれに近づけるように、また、ステイホームで曜日感覚、時間感覚が無くなりそうな中で授業形態だけが主体的学習をするための工夫なのかということについて今後も考えていきたいと思います。 【関西大学１年次生】 貴重な情報・ご意見ありがとうございます。 そのような授業が増えると、私たちも非常に嬉しいです。

以上